

今後の我が国の取組について (討議の主要なポイント)

- 以下のような日本の 3R の制度・技術・経験を、アジアをはじめとする各国の循環型社会の構築のために国際展開していくに当たって、どのような施策が効果的か。
 - 我が国の 3R (Reduce、Reuse、Recycle) ・廃棄物管理の先進的な制度
 - 廃棄物処理・3R 関連の技術・システム
 - サプライチェーンや製品市場における事業者の取組
 - 地方公共団体、NGO 等の取組と連携の経験
 - エコタウン事業 等
- 国際的な循環型社会の構築に向けて、3R の情報・データの整備をどのように進めるべきか。
- 循環資源の品質に係る基準・規格など 3R に関連する共通ルールの構築や普及に向けた検討・取組をどのように進めるべきか。
- 東アジア循環型社会ビジョンの策定に関する議論を円滑に進めるために我が国はどのようなアプローチをとるべきか (合意形成プロセス、ロードマップ等)。
- 各国内の循環型社会の構築、有害廃棄物等の不法輸出入防止を図った上で、国際的な資源循環を促進するためにとるべき施策は何か。
 - 途上国では適正処理が困難だが日本では可能である廃棄物等を可能な範囲で日本が受け入れる等の廃棄物処理の国際分業
 - 有害廃棄物に係るアジア・リスティング 等
- 3R を通じた地球温暖化対策への貢献など他の環境政策との統合的取組や、貧困削減対策、産業政策等との連携を、3R の政策優先度を高める観点からも積極的に進めるべきではないか。また、そのための効果的な施策は何か。
- アジアや世界で 3R を推進するための国際協力を充実するため、国際機関等 (国連機関、開発金融機関)、二国間開発協力機関とどのように連携して、能力開発やインフラ整備など支援していくべきか。
- 物質フローと資源生産性、天然資源の利用による環境への影響などの科学的知見を蓄積していく上で、アジア諸国とどのように連携・協力していくべきか。